

研究大学に対する支援全体像

世界と伍する研究大学



(大学ファンドによる大学の支援)

特定分野で世界トップレベルの研究拠点を形成



地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ
(総合振興パッケージ) による支援

特定分野で第一線の研究者が世界から
糾合する優れた研究環境と、極めて高い
研究水準を誇る大学への支援策

大学ファンド
による
別枠の支援

優秀な
博士課程
学生支援

基礎研究からイノベーション創出を一貫通貫で行い、大型の産学連携を推進



産学官で共創の場を形成し、
組織対組織の大型産学連携を
推進し社会実装を目指す
大学への支援策

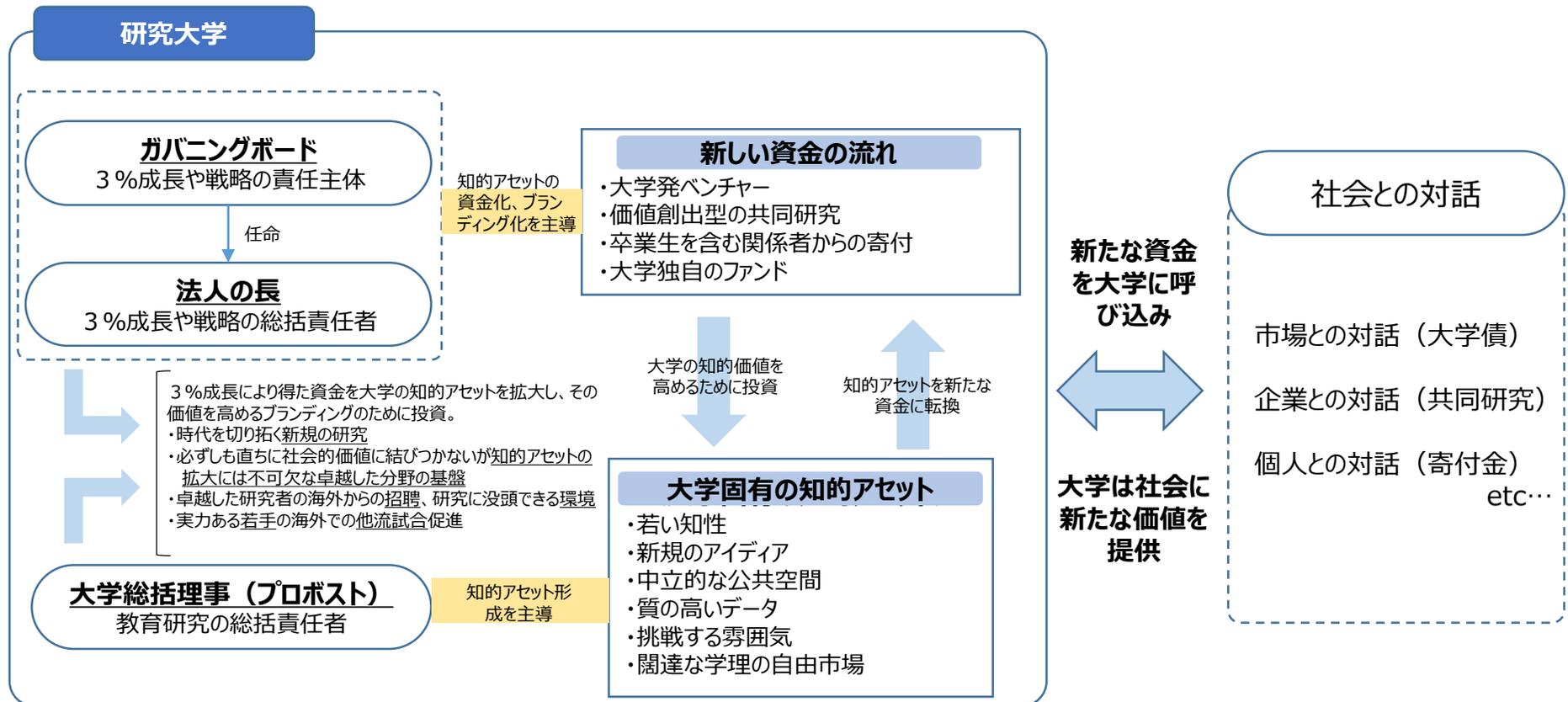
産学官連携を推進し、地域の産業振興や課題解決に貢献



地域社会における大学の
ポテンシャル活用を
行う取組への支援策

新しい資金の流れと研究基盤の形成

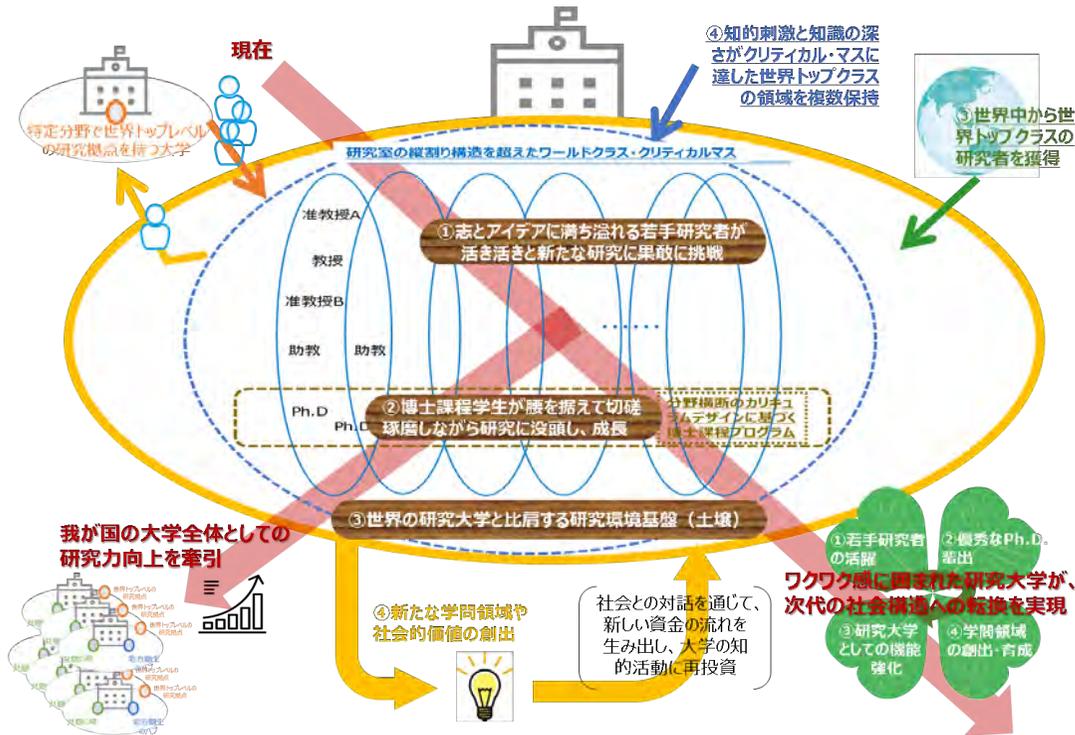
- 欧米の研究大学はこの15年で事業規模を大きく拡大（スタンフォード大学の事業規模は今や東大の3倍）。
- 我が国の研究大学がこれらの大学と伍するためには、長期的視野に立って大学の事業収入を拡大することが必要。
- 具体的には大学ファンド支援対象大学は年3%の事業収入の拡大にコミット。
- そのためには、大学固有の知的アセット（若い知性、新規のアイデア、中立的な公共空間、質の高いデータ、挑戦する雰囲気、闊達な学理の自由市場）を適切にプライシングし、大学発ベンチャー、価値創出型の共同研究、卒業生を含む関係者からの寄付、大学独自のファンドの拡充などが確実に行われる仕組みが必要。
- このように研究大学が高い学術研究水準を活かして現在の産業構造において社会的価値を創出し、新しい資金の流れを作り、その中で次代を切り拓く、これまで全く思いもつかなかった新しいアイデアの研究や若手研究者、博士課程学生などの支援、日は当たらないけれども大学の知的アセットの充実のためには欠かせない分野の基盤の形成などに投じるという「両利きの経営」は大学の公共性にとっても重要。



世界と伍する研究大学として目指すべき大学像

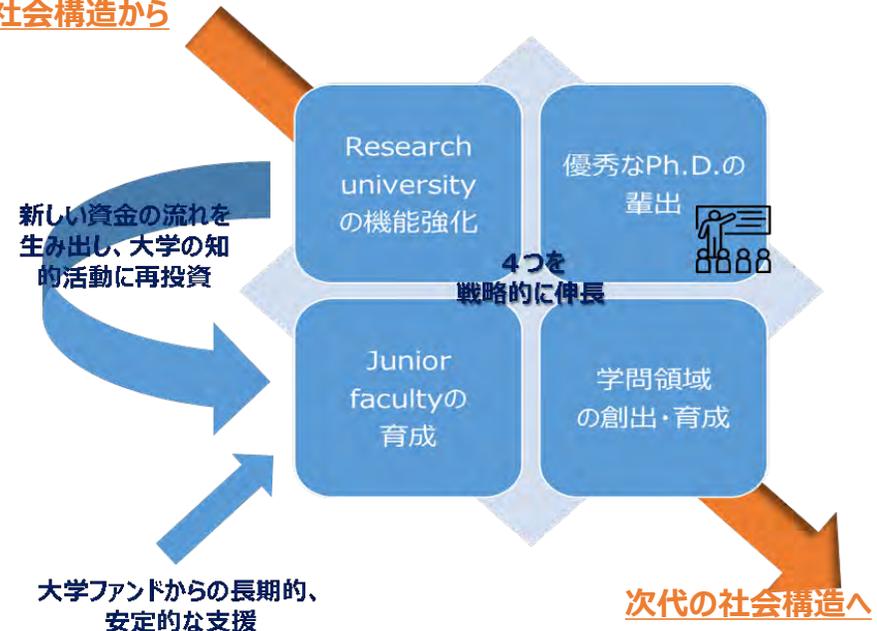
- 世界から目に見える（フラッグが立っている）大学として、世界トップクラスの研究者が集まり活躍できる環境を作るための**研究大学としての機能を強化**し、カリキュラム・デザインに基づく博士課程教育において**優秀な博士人材を育成**するとともに、**若手研究者が独立した環境で存分に研究できる環境**を通して、新しい**学問領域を創出・育成**し続けること。
- 国内外の若者や若手研究者が「ここで自立して研究したい」と強く思う**魅力的な研究環境**を持ち、彼らがやる気に満ち溢れ活躍出来る場を提供する、いわば**我が国の大学全体としての研究力向上を牽引**する大学となること。
- **社会的価値の創出に繋がることを念頭**において、**起業家も含め産業界で活躍する人材の輩出・育成**や、**エマージングテクノロジーへの果敢な挑戦**を通じた新たな成長分野の創出、さらには**人間や社会の望ましい未来像の実現に向けた高次の視点からの俯瞰的把握**や、**カーボンニュートラル、DXといったグローバル課題解決への貢献**など、**次代の社会構造への転換**に向けて大胆なビジョンを描き、**社会の多様な主体と常に対話しながら、活動を展開**すること。

【目指すべき大学像の全体イメージ】



【目指すべき大学像の4要素】

現在の社会構造から



「世界と伍する研究大学として目指すべき大学像」を踏まえた評価の考え方

- 研究者が持つ無限の研究ポテンシャルを引き出し、新たな学問領域の創出・育成や若手人材への投資など、次代の社会構造への変革につながる研究上の土壌（ポテンシャル）を、大学が提案するビジョンや戦略を通じて評価し、選定していくことが重要ではないか。
- 上記の研究上の土壌（ポテンシャル）に関する具体的な評価の視点としては、以下が考えられるのではないか。
 - 世界的な研究者マーケットでのトップ研究者や国内外の優秀な博士課程学生の獲得や活躍促進
 - 分野を横断したカリキュラム・デザインに基づく博士課程プログラムの構想力
 - 世界トップクラスの研究者・学生が糾合する研究領域の創出・育成（World-class Critical Mass※の形成）
 - 新しい価値を生み出す研究分野間の対話や結合を可能とする卓越し且つ多様な学問分野
 - 研究室の縦割りを越えて若手研究者が独立して活躍できる場の提供やモチベーションを喚起する厳格な業績評価
 - 研究支援者の積極登用など研究時間の確保に向けた研究環境の整備
 - グローバルに戦う大学を支える事務職員の意識や資質の向上
 - 世界と伍する研究大学にふさわしい研究インテグリティの確保（自主規制計画の策定等）
 - AIや量子技術などの戦略重点分野やエマージングテクノロジー（新興・融合分野）への取組、さらには新たな萌芽的挑戦

10兆円規模の大学ファンドの創設

現状とファンド創設の狙い

- 研究力(良質な論文数)は相対的に低下
- 博士課程学生は減少、若手研究者はポストの不安定/任期付
- 資金力は、世界トップ大学との差が拡大の一途

- 世界トップ研究大学の実現に向け、財政・制度両面から異次元の強化を図る
- ✓ 大学の将来の研究基盤への長期・安定的投資の抜本強化
- ✓ 世界トップ研究大学に相応しい制度改革の実行

制度概要

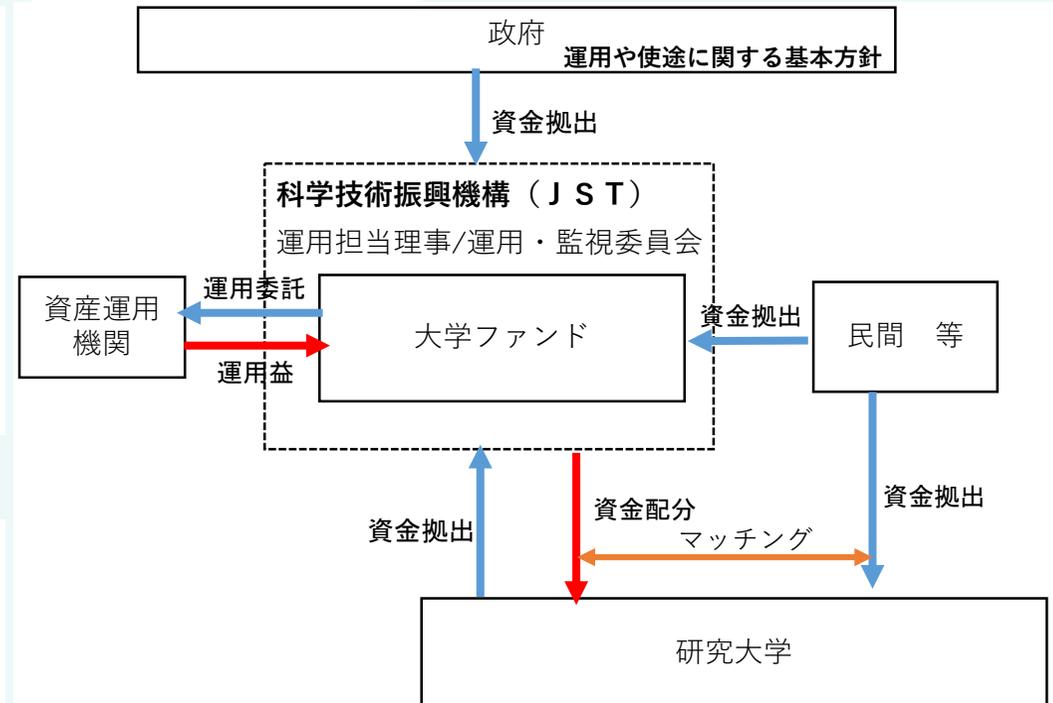
基本的枠組み

- 科学技術振興機構（JST）に大学ファンドを設置
- 運用益を活用し、研究大学における将来の研究基盤への長期・安定投資を実行
- 参画大学は、世界トップ研究大学に相応しい制度改革、大学改革、資金拠出にコミット
- 財政融資資金は50年の時限、将来的に大学がそれぞれ自らの資金での基金運用するための仕組みを導入。

大学ファンドの運用

- 4.5兆円（※）からスタート、大学改革の制度設計等を踏まえつつ、早期に10兆円規模の運用元本を形成
※政府出資0.5兆円（R2第3次補正予算）、財投融資4兆円（R3財投計画額）
- 長期的な視点から安全かつ効率的に運用/分散投資/ガバナンス体制の強化など万全のリスク管理
- R3年度中の運用開始を目指す

スキーム



将来の研究基盤: 大学等の共用施設、データ連携基盤
博士課程学生などの若手人材

大学ファンド創設に関するこれまでの進捗と今後のスケジュール

